

[会議の録画映像はこちらからご覧ください。](#)

令和3年第3回広陵町議会定例会会議録（3日目）

令和3年9月13日

○4番（山田美津代君） 議場の皆さん、こんにちは。4番、山田美津代、3問の質問をさせていただきます。

1 問目、コロナから町民を守り抜くために独自の施策を。

全国の感染者が増え、県も町も毎日感染者が出て、どこまで増え続けるのかと不安な毎日です。この通告書を書いている時点で、重症者2,000人、自宅療養者、全国で11万人超えています。全国的に全ての地域でこれまでに経験したことのない感染拡大が継続していて、これからも感染者数が増加し、死者数も大きく増加することが懸念されています。

8月20日に今井県議と町議員団で感染拡大への対応を10項目要望いたしました。このような状況の中でどう町民の命と暮らしを守るか検討されていますか。

テレビのワクチン接種状況発表で最下位だった広陵町も2回目接種から、下から4番目になりましたが、全国にワクチン接種が進んでいない町との汚名が知れ渡り、県外の方からも御心配の声をいただきました。その上、7月5日には、ワクチンの打ち手の確保ができていないなどの不始末が続き、町民の不信も生まれています。この状況を打開するためにも、町としてPCR検査や抗原検査を積極的に行い、町民の命を守るべきではないでしょうか。

ワクチンを2回打っても感染はして、無症状のまま出歩き感染させているケースが3.1%あると報道されています。子供たちへの感染も心配です。それらの抜本的な解決方法はありませんが、せめて検査体制をいち早く整えて、いつでも、何回でも無料で検査を受けられるようにする必要を認めるべきです。

また、自宅療養者の情報を自治体は個人情報観点から掴めないため家族中感染していて、食料など枯渇した場合など、軽い症状の感染者がスーパーなどに買い出しに出てしまうなどのことが起きている。保健所からのきめ細かな対応が無理な今、こういうケースの感染者に対する体制を整える必要があるのではないか、次の項目を検討いただきたい。

①町内の検査体制を確立させ無症状の陽性者を見つけ、保健所などの指示で療養者宿泊施設などに保護できる体制を整える。

②59歳以下の若い町民へのワクチン接種は土日と予定されていると報告がありましたが、いち早くワクチンを打っていただくことが必要。そのため、三恵クリニックや畿央大学、医師会などあらゆるところへの協力要請をする。

③子供たちへの感染が心配される。家庭内感染が主と推察されているが、先生方への接種を急ぎ、12歳以下の子供たちへの検査や12歳以上の子供たちへのワクチン接種も急ぐ。

④希望される自宅療養者へは、手厚い生活面でのきめ細かな支援ができるよう県と調整をする。コロナ禍、自宅療養者の支援は、9月1日からされているということがホームページに載っておりましたが、その体制をやっぱりもう少し確立していただきたいと思って、質問に載せております。

質問事項2、ゲノム編集トマトなどの流通は危険、給食には使用しないように。

遺伝子操作の食物が研究開発され出回ってくると報道にありました。まだ安全性や環境への影響などの審査もないまま、この冬にも販売される予定です。国内で生産・販売されるゲノム編集食品の第1号が高GABAトマトです。血圧上昇を抑える成分がより多く含まれていると言いますが、契約農家が栽培し、収穫したトマトは企業が全部買取り、トマトピューレなどの製品になり販売されます。日本政府は、従来 of 突然変異と変わらないと安全性審査や環境影響評価を行いません。表示も義務化せず企業任せにしています。消費者は商品を選ぶことができません。安全が確認されていないものを流通させるのは大変危険です。特に給食には絶対使用させないでください

質問事項3、9月新学期が子供たちにとって自殺や不登校を引き起こす時期だと懸念されています。この時期をどう安心安全に過ごせるようになるか手だてが必要では。

広陵町では、9月や4月の時期に事故など起きていませんか。不登校者数が示されていますが、新学期に多い傾向はありますか。

また、事務報告書では教育委員会の総括表が作成されていますが、気になることがあります。その中で、学校支援室の評価が昨年同様Bでした。夏季教育相談の実施やスクールカウンセラーの派遣、心の相談室の開催、子供と親の相談室など取り組まれた報告がありました。これらを含めた様々な教育相談の充実の総合評価がBだということですね。いじめや不登校など子供たちの心の中はなかなか掴めません。それでも何かサインがあるはず。保護者と連携を取り合っ、子供たちの出すサインを見逃すことのないよう研鑽を積んでいただきたいと思ひます。そして、支援室評価をぜひ自己採点でもAになるように取り組んでいただきたいと思ひます。

以上、よろしくお願ひいたします。

○議長（吉村裕之君） ただいまの質問に対し、答弁をお願いします。

山村町長！

○町長（山村吉由君） 山田議員さんの御質問にお答えを申し上げます。

私は、1番目のみでございます。2番、3番は教育長がお答えいたします。

コロナ禍から町民を守り抜く独自の施策をとということでございます。

一つ目の町内の検査体制の確立についての御質問にお答えいたします。

感染拡大が継続しており、不安に思う方が多い状況にあるのは十分に承知しております。新型コロナウイルス感染症は、感染判明後の濃厚接触者の特定や感染者の入院調整等を保健所が行う「指定感染症」であり、町が陽性者を保護できるものではございません。また、確定診断には、医療機関等の協力が不可欠となり、症状のない方の不安解消を目的とした検査を行うことは困難でございます。

二つ目の59歳以下の若い町民へのワクチン接種についての御質問にお答えいたします。

まず、集団接種におきましては、土曜日、日曜日、夜間に実施し、接種者として救急救命士を起用することなどにより、1日に接種を受けることできる人数を増やしております。畿央大学でも既に接種を行い、接種会場といたしましたし、また、町内医療機関で行う個別接種におきましては、町内のほとんどの医療機関の御協力を得て、職域接種や妊婦とその家族への接種、土日や夜間の接種など多様な要望に対応していただいております。このことにより、11月上旬までに接種可能年齢の75%完了を目指しております。

三つ目の子供たちへの感染の心配に関する御質問にお答えいたします。

町内の小中学校の教職員への接種につきましては、医療機関個別接種の職域接種として1回目の接種は完了をしており、9月中に2日目の接種が完了いたします。12歳以上の接種につきましても、保護者と一緒に受けられるよう配慮し、案内いたしましたので、個別の状況に応じて、集団接種や個別接種で受けていただいております。

4つ目の自宅療養者に対する生活面での支援についての質問にお答えいたします。

坂口議員にお答えいたしましたとおり、町ホームページで周知をさせていただいたところでございます。利用を希望される方は電話で申し込んでいただき、申込み内容の確認のため、社会福祉協議会担当者が再度、利用希望者に電話で内容や受け渡しの確認をいたしました上で、希望のものを準備いたします。調達は、再度、利用者に電話連絡をいたしました上で、玄関先にお届けし、商品代金は、お届けの際に振込用紙を入れておき、後日納付いただきます。この事業により、新型コロナウイルス感染症患者のうち、自宅療養となった方や濃厚接触者の方の不安を少しでも軽減し、安心な療養生活を過ごしていただくことはもちろん、買い物等の外出をせず自宅療養に専念していただくことにより感染拡大防止に取り組むとともに、感染対策の意識の向上にも取り組んでいるところでございます。

私からは以上でございます。

○議長（吉村裕之君） 植村教育長！

○教育長（植村佳央君） 山田議員さんの御質問にお答えをさせていただきます。

まず、二つ目のゲノム編集トマトなどは危険、給食に使用しないようにの御質問にお答えをさせていただきます。

議員御質問のゲノム編集トマトは、植物自身が持っている遺伝子配列を目的に合わせて確実に変更することで、植物が本来持っていた遺伝子の働きを強化したり停止させたりできる品種改良技術により、GABA（正式名称をGamma-Amino Butyric Acidといい、 γ -アミノ酪酸の一種）の量を増加させたトマトでございます。この技術で品種改良した高GABAトマトは、外部から遺伝子を導入していないため安全性審査の必要がなく、ゲノム編集技術を応用した食品として厚生労働省へ届け出がされ、また、環境省や農林水産省へも情報提供書の提出が行われていると認識しております。

本町における小中学校の給食では、栄養教諭などからなる献立検討委員会で献立を決定し、必要となる食材物資につきましては、町内給食物資納入業者への発注、加工品については、物資選定委員会で選定し、決定しております。

製品として紹介いただいております、トマトピューレの学校給食の使用といたしましては、中学校給食におきまして、年に4回から5回スープやロールキャベツなどのソースに使用しておりますが、御質問いただいたゲノム編集技術を用いた高GABAトマトのトマトピューレは、現段階で使用する計画はございません。

また、給食で使用する食材物資につきましては、物資選定段階で確認し、納入段階では指定したものが適切に納入されるよう、今後も物資選定関係者や物資納入業者などにも適切に情報提供、情報共有を行ってまいります。今後も子供たちに、より安全で安心な給食を提供するために様々な情報を収集し、食材の安全性を確かめた上で提供してまいりたいと考えております。

三つ目の御質問、新学期の自殺、不登校対策についてにお答えをさせていただきます。

一つ目の本町において9月や4月に事故が起きていないかとの御質問でございますが、幸いにも現在のところ起きておりませんし、これまでも不幸な事故などはございません。

二つ目の不登校者数に関する御質問でございますが、一般的には新学期に少なく、学期途中で徐々に増加していく傾向がございます。

三つ目の事務事業評価に関する御質問にお答えいたします。

総合評価をBといたしましたのは、各種相談につきまして、Aと評価できる内容で実施いたしましたが、新型コロナウイルス感染症対策による学校休業や実施方法に一定の制約がございましたため、総合評価をあえてBといたしましたものでございます。

最後になりますが、議員御指摘のとおり、子供たちの心の中はなかなか掴めないものでございます。しかし、自律という観点から見ると、子供の成長を示すものでもあるとも考えられます。学校現場のみならず、子供たちが発する何らかのサインに注意することはもちろん、子供たちの成長を支えていくことは、大人としての責務でございます。特に、担任をはじめ、教職員には子供一人一人の日々の表情や言動などを的確にとらえ、いつもと違った状況には声をかけ、寄り添う姿勢を示すことが何より大切なことであると考えます。

町教育委員会といたしましては、保護者と学校が連携して、子供たちの育ちを支えていけるように今後も支援してまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（吉村裕之君） それでは、2回目の質問に入させていただきます。

山田議員！

○4番（山田美津代君） このワクチン接種に対しての不信感、この町民の不信感をどう受け止めておられるのかまずお聞きしたいです。町長、副町長、部長、順番にお答えください。

○議長（吉村裕之君） 山村町長！

○町長（山村吉由君） 奈良県下で一番接種率が低いということは、スタートが遅かったという点は、確かにそのとおりでございますが、やはり予約システムを完璧なものにするということで、スタート時点で受付事務で混乱を招かなかったということは評価できると私自身も思っております。ただ、接種は、当初ワクチンの供給量が不安定であったということも事実でございますので、そのことを踏まえて、確実に接種できる時期からスタートしたということで、他の自治体は早くやったという点においては、それは理由にならないとはいうふうには思いますが、やはり安全を第一に進めてくれたという点においては、自分自身は評価をいたしております。ただ、相対的に遅くなったという点で、町民の皆さんに不安な思いをさせたということについては、おわびを申し上げたいというふうに思います。

○議長（吉村裕之君） 松井副町長！

○副町長（松井宏之君） 私も本部長としまして、一番最初からスタートする時点から、なかなかスタートし切れなかったといういろいろな問題があったというのは事実でございます。それと、7月5日にお医者さんの不備、不手際というようなことで、いろいろ批判を受けるところは多々ありましたが、本部の職員につきましては、一生懸命やっているということで、受け付けに関しましても、やっぱり親切丁寧に受け付けをしているということで、そのいろんな形の評価はいただいているところもございますので、今後ともいろいろな、これからやっていく上でいろいろな問題もあると思いますが、十分そこは協議して進めていきたいと思っております。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 接種率がなかなか伸びないというところで、いろいろと不安を与えましたことにつきましては、大変申し訳なかったことというふうに感じております。広陵町のほうでは、6月21日というところを開始日とさせていただいております。それまでに高齢者施設を回らせていただいて、接種を開始させていただいております。その間、高齢者の接種が遅れたという状況にはなってございましたが、その分といいますか、6月の末から7月いっぱい、毎日接種をさせていただいたり、ほかの三恵クリニックを利用させていただくなどしながら、60歳以上の方まで一応終わらせていただけるような状況になってございましたので、何とか追いついたというか、形でやらせていただいたというところがございます。ただ、今現在も中学生、高校生の方につきましても、9月には2回目の接種を終えていただけるような状況でございますので、頑張っってやっていきたいというふうに思っております。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） おわびと言いつい訳をお聞かせいただきましたけれども、こういう町民の不信感の払しょくに真剣に取り組まれておられることをお聞きしたかったのですが、では、どうやって安心感を持っていただけるかを考えておられますか。

じゃあ、代表して町長お願いできますか。

○議長（吉村裕之君） 山村町長！

○町長（山村吉由君） やはり、予定どおり確実に予約をしていただいて、接種を希望される日に受けていただけるような仕組みを作っていくということで取り組んでまいりましたので、そのことは軌道に乗っておりますので、安心していただけるというふうに思います。確かに、遅かったということについて、他の市町村に比べて遅い遅い、なぜ遅いんだという理由を説明せよというメールが何通も来ました。しかし、接種を始めましたら、やはり丁寧に対応していただいて安心できるというお礼のメールも何通か来てございますので、そういった点では、評価をいただいていると思います。

安心していただけるのは、やはり接種するときに来られる方は、みんな不安を持って来られるわけでございますので、特に女性の方は、どきどきするというのを私自身にも申し上げられていた方がございまして、7月5日のあのお医者さんの手配を誤ったときも、どきどきしながら来たのに、またこんな目に遭わされたということで、なお接種するのが怖くなったというふうにもおっしゃっておられましたが、私もその方と対話をさせていただいて、おわびも申し上げましたし、もう今日ぜひ受けて帰っていただけるように手配しているのです、お待ちいただきたいということで、帰るときには、大丈夫でしたかという声をかけましたら、大丈夫でしたと、ありがとうございますという声もかけていただきま

した。やはり、親切に職員が対応するということが安心感につながるものというふうに思っておりますので、今後も職員にはそのことをしっかり通達いたしておりますので、評価は高いというふうに思っております。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 本当に広陵町民は優しい方ばかりで、町長良かったですね。喉元過ぎれば熱さを忘れると町民のお怒りを忘れるのを待っているとしか思えません。ワクチン接種進んでも感染はするし、デルタ株の猛威は、接種が進んでいない若者や子供たちへ襲いかかってきます。また新たなミュー株も出てきました。どうしたら防げるのか、ここを真剣に取り組んでいただきたいと思っています。それどうしたら防げるのか。国が考えることだと思うんですけど、町長、それには検査しかないんですよ。ワクチンを接種した人の割合が人口の4割に達したら減少傾向が明確になると菅首相が7月の会見で言われましたが、現在も国民の4割を超える人が1回接種を終えた現在でも急拡大しています。ワクチンだけで収束するのは難しいと、河野ワクチン担当相も言われています。

コロナの最も厄介な特徴が無症状感染者からの感染拡大にあると指摘されています。無症状者を含めた大規模検査が感染制限のかぎです。ところが、日本は世界と比べるとPCR検査143位です。ちょっとでも具合の悪い人や感染の心配のある人は、職場、学校、地域どこでも気軽に検査できる体制を国、自治体が一生懸命やってほしいと7月30日の会見で尾身会長も述べられています。さわやかホールまたは三恵クリニックなどにいつでも検査できる検査会場の設置を急いでください。さわやかホールでは、59歳以下の方へのワクチン接種の準備体制がありますが、土日と夜間なので、お昼間は開いています。この時間で検査体制を整えたらいかがでしょうか。

また、大学生やお昼間来られない方への検査体制も検討すべきです。三恵クリニックさんをお願いするか、若い自宅療養者、亡くなられているニュースを聞いて学生さんも心配ですので、再び畿央大学に検査体制をとっていただくことも検討できると思います。また、各家庭にキットを希望者へお送りするかなどすべきではないでしょうか。今、町が名誉挽回の施策を打つチャンスではないかと思うんですが、いかがですか。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 検査体制につきましては、今現在は、町内の医療機関等でやっていただいているという状況でございます。さわやかホール等で検査をするということになりますと、医師の配備というものが必要となってまいります。あと、そういう体制をなかなか町単独で体制を整えるというのは今の状況では厳しいというふうに、難しいというふうに考えております。三恵クリニックさんであったり、医療機関でありますので、

検査体制をやっていただけるかどうかというところは、検討させていただくというか、協議をさせていただいたりというふうにさせていただいたことがあるんですけども、なかなか受入れ態勢というのは難しいというところで、今実現には至っていないというようなところでございます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 11月には、若年層への接種が終わり、コールセンター業務も終われば、今度はそういったような検査体制に移行していくことを検討してほしいんです。そうしないと、コロナ収束しません。広陵町のこの実施への取組が全国に広がれば終息への明かりが本当に見えてくるのではないかと思うんです。

また、子供たちへの感染が心配されます。学校、幼稚園、学童クラブ、保育所に定期的に検査キットを配布して安心できる体制をとり、陽性者が出たら保護して、療養施設に入所していただくことも併せて要ります。国がさっぱりそういう体制をとらないのですから、町が町民を守るため一大決心をされるときではないでしょうか。保育所の園長先生が言われていました。何回か感染者が出て不安な中で保育をしている。そのたびに濃厚接触者は検査をされていますが、他の先生の検査はされず不安でいっぱい。保護者の働かなければ暮らしていけない、また社会的に休めない仕事事情を考えると、保育所を休園するわけにはいかない、検査を何度でもしていただければ安心できます。こういう声が届いていないのでしょうか。ワクチン接種も大事ですが、併せて検査体制をとっていかないと、デルタ株は無症状者を介して広がっていくのですから、こういうエッセンシャルワーカーに対する支援、進んでいるのでしょうか。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 学校とか園につきましては、教員用ということで、簡易キット等が国のほうから送付されてきておりますので、それにつきましては、検査をしていただける状況にあるというふうに思います。ただそれも数等にも限りがございますし、そういうところで陽性反応が出た場合には、医療機関にかかっているところもございまして、御本人さんの意思により検査をされるというところにはなりません。ただ、陽性反応が出たりというところの対応は必要となってまいりますので、校医の先生であったりとか、そことちょっと調整を図らせていただいて、心配な先生方で心配な場合とか、症状とかがあれば、ちょっと検査をしていただけるような体制はとらせていただいております。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 国が音頭をとらないから町も動かないというのではなくて、町民の命第一に考えて検討してほしいんです。そして、陽性者は、今もうすぐ抜本的に考えて行けないといけないと思うんです。療養宿泊施設を町が用意して、手厚い看護ができるよう、今から検討すべきではないかと私は思っています。コロナとの戦いはまだ数年かかると言われています。医療が崩壊して、災害級になっている状況を重視しなければ、この危機は乗り切れません。第5波が鎮まっても、検査体制とっていかなければ、第6波がまた来ます。来ても町が療養施設を持っていれば、町民は安心して治療を受けることができます。その自宅療養なんかしなくても済むわけです。自宅療養は、本当にこの施策をとった自公政権の責任は大きいと思います。

町内でも広い土地が廃業などにより空いています。そういうところを生かして、そういう町の療養施設して、保護、そして介護していくということが考えていかなければいけないことじゃないかなと思うんです。感染症法があるからというふうに部長、前に言っておられましたけれども、それでしたら、保健所のある県とかに、そういう施設を要請すべきではないでしょうか。7日の議会对策特別委員会では、自宅療養を余儀なくされる人が亡くなるようなことがあってはならないと、臨時医療施設などの早急な体制整備を求めています。また、自宅療養者の氏名、住所などを市町村に提供すべきではとも話し合われています。この辺どのようにお考えですか。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 町が療養施設等を設けるということは、場所を提供するということはあるかも分かりませんが、ただ、場所等については、やはりかなりの立地条件というところもございます。あまり目の付くところでは、個人の情報が漏れてしまうというような状況もございますので、やはり立地条件でありましたり、ただ、町が運営するということはかなり難しく、人員配置等も必要になりますので、町として運営していくことは難しいというふうに考えておりますので、県のほうと、いろいろな県のほうも、今ホテルであったり、いろんな場所を拡大をされておりますので、そちらのほうで拡充のほうをしていただければというふうに考えております。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） そのコロナの感染者じゃなくて、検査をして、PCR検査をして、陽性とか陰性とか出た場合の陽性者の保護、隔離ということを私は検討していくべきではないかということを、県にそういう療養施設を考えていただくように進言していただきたいというふうに思っているわけです。

先日の全協で質問して以来、若者への接種体制を夜もとる方向が示され、1か月早く接種が終わる予定が早まりましたね。テレビでの報道でも、一番感染者が多いのが20代から50代です。そういう報道を見るたび不安に思われて、早くワクチン接種したいと思われている、そういう若者が多くて、東京渋谷の長蛇の列を見ても、若者たちは不安な気持ちが表れています。それを読み取れなかった都知事への批判も出ています。それが9月から11月までかからないと2回目が終わらないなんて待ってられないお気持ちではないかと思うんです。なぜこの土日だけでなく、夜もという、そういう体制を初めからとれなかったんですか。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 医療機関、先生方の御協力を平日の夜であれば、夜の診療をされておられるというところもございますので、なかなか御協力いただける部分ではなかったというところで、救命救急士さんを接種者として養成しましたので、その部分を含めて、夜の接種をさせていただいたというところがございます。

土曜日の夜であれば、診療していただいていないというところもありますので、御協力をいただけたというところで、日程を調整させていただいたというところがございます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） それも救命救急士さんを早く、思い浮かべばいけたんじゃないかなと思うんですけどね。

次、行きますけれども、町内でも新学期が始まり、心配していたように、感染者が出て、学年閉鎖が起きました。学校だけが感染元ではないと思いますが、なぜ夏休みが終わる前に先生方の接種が終わらなかったのでしょうか。先生方、何名中何人接種が終わられていますか。この何か全協か何かで130人って池端局長が言われたように思うんですが、何人中130人だったのでしょうか。

○議長（吉村裕之君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 教職員の先生方は、御自身の住所地でもう既に申し込みをされているとか、1回目打っているとか、あとちょうど時期的には、県の大規模接種等も始まってございました。どうしても家族一緒に受けたいとか、そういうふうなことがございまして、私ども教育委員会で取りまとめをさせていただいた分としては、大体130名、教職員の先生というのは、もっとその3倍ぐらいはおられます。いわゆる教諭の先生とか、あと講師の先生とか、いわゆる関係者というようなくりでございますけれ

ども、いわゆる支援スタッフ、会計年度の任用職員も含めて御案内をさせていただきました。その中で、福祉部のほうとも調整をいただきまして、130名余りの接種が済んでございます。

それとお尋ねではございませんけれども、給食の関係についても、これは企業のほうでももう実施をされておられるところもございましたけれども、名阪食品さんとか、今の新しく委託をしたハーベストネクストさん、これもわずかですけれども、5名、6名ですけれども、やっぱりお受けをいただくというところで、これも案内については1回ではなしに、本当にもう締め切りますよと、まだ接種の場合は申し出てくださいますよということで、2回、3回とそういうふうに御案内をさせていただきました。

以上でございます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） 130名と聞いて、保護者の方が不安に思われなかなというふうに思うんですね。というのは、この間も言うておられたように、尼崎のことがありましたんで、感染していた教師が報告せずに子供たちに教えていたことが判明しました。広陵町はそんなことはありませんと言っておられましたので、大丈夫と思うんですけれども、12歳以下の子供たちは接種の対象から外されています。大人が子供たちに移さないよう万全な体制を取る必要があります。早急に接種を進めていただきたいと思います。

また、神奈川県では、ワクチン接種対象年齢未満児童がいる家庭への抗原検査キット配布を開始しています。対象は77万人で、1人当たり2キットを配布、学校や幼稚園、保育園を通じて配るそうです。町でもワクチン接種が進んでいない中高生や国が配付対象外としている学童指導員へのキットの配布もいると思うんですが、学童指導員への検査体制、これはとられているのでしょうか。

○議長（吉村裕之君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） 先ほど、福祉部長が若干触れさせていただきました。岡本議員の質問にも、その2回目以降は御質問ございませんでしたけれども、いわゆる抗原検査キット、ほんでこれが国のほうから配布されます。今の段階では、まだちょっと手元に来ておりませんが、必要十分な数があるというふうな見込みは、ちょっと残念ながらございません。ただ、この前に、2回目もう少し枠としてはもっと必要ですかというふうな案内が来ましたので、手をもちろん挙げております。今の段階で、学校のほうに来るキットにつきましては、一つのパックに大体10人分入っていると。それが17パックといいますか、17ケースということで、170回分です。ちょうどインフルエンザの検査されたことがあると思いますけれども、鼻の穴にずぼっと突っ込んでというのか、

それをキットのところに、ケースにいれるというようなんで、PCR検査よりも制度は劣る。ただし、時間的には早く分かるというところでございます。それはメリット、デメリットあるんですけども、そういうふうな数の関係上、これ校医の先生方とも協議をして、それでまず一義的に有効に使えるというふうなそういうものであろうと思いますけれども、そこら辺の確認も含めて、必要であれば、町のほうでもまた購入をするという考えでおります。そのようなところで御理解をいただければと存じます。

以上でございます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） もう絶対に必要がありますので、町は購入を考えてください。お願いします。

自宅療養者への支援チームを作られたということで、希望する方への支援体制を作ったとホームページにありましたが、その情報はどのように伝えられるのでしょうか。まだ1日から日が浅いですが、今どのような現状でしょうか。

○議長（吉村裕之君） 北橋福祉部長！

○福祉部長（北橋美智代君） 以前から、中和保健所のほうには、自宅療養になられた場合には、何か支援等が必要であれば、町のほうに御連絡をいただきたいというか、御本人さんから何か連絡をいただければというところで対応をしておりましたが、今いろいろと先進地というか、ほかの自治体、やっておられる自治体等を聞きますと、いろんな要求とかがあるので、ある一定どういうものがあるのかというのを示したほうが利用しやすいとか、ちょっと相談に乗れないような要求があったりしているところがありましたので、9月1日に、こういう支援をさせていただきますということで載せさせていただきました。その際にも、買い物よりも何か食べ物をまずは欲しいんだというようなお声もいただきましたので、サポートパックというものを作らせていただきました。

情報発信につきましては、今ホームページ等に載せさせていただいているというところでない、ちょっともう情報発信はできないというところなんです、保健所のほうには、こういうものをさせていただいておりますので、どうぞお声がけをいただきたいということで、伝えさせていただいております。今、ホームページに載せさせていただいて、3件ありましたが、一番初めはちょっとお買い物の御相談があったんですけども、衛生上、生もの等をお断りをさせていただきましたので、それであればということで、実現には至らなかったというところがございます。3件のうち1件、お薬の受け取り代行というのございましたので、その意見は行かせていただいたという状況です。もう1件も同じで、ちょっとしっかりお買い物、そういう状況であればいいですというところがございます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○４番（山田美津代君） もっとたくさん質問事項あったんですが、時間がないので、まとめて言います。

各市町村が自分のとこでできる範囲で、このコロナから町民を守る手だてを工夫していかないと、いつまでたっても医療崩壊、また自粛はなくなりません。前までのような何か平和な日常というものを一日も早く取り戻したいと思っているんですけども、そこへ行くまでには、まだ数年かかるような事態ですので、ちょっとここのところ感染者数、奈良県も60人台に減っては来ていますが、これ油断すると、またぐっと上がりますので、油断は決してできません。そういうことで、町ができる範囲でもっとできることを検討していただきたい。検査、そしてこの隔離、保護体制、このことを推し進めていかないと、それも各自治体でしていく必要があるのではないかと考えています。真剣にコロナから町民を守る手だてを検討していくことをお願いをして、次の質問に移ります。

ゲノム編集とは、農家や消費者に嫌われ、拡大に失敗した遺伝子組み換え技術に変わって登場した技術です。特定の遺伝子を壊すノックダウン技術です。また壊した後に、違う遺伝子を挿入するノックインすることもできます。肉厚の真鯛やトラフグ、芽が出ても安心なジャガイモ、白いままのマッシュルーム、超多収米などが研究開発されています。ジャガイモの芽に毒があるのは、芽を守るため、このようなジャガイモの栽培が広がると全滅する危険性も出てきます。そうしたゲノム編集のような改変が必要なのか、遺伝子を壊して品種を改良するもの、そもそも生き物は調和、バランスの上に成り立っています。例えば、背丈を伸ばそうとする遺伝子がある一方、それを抑えようとする遺伝子もあり、ゲノム編集で抑えようとする遺伝子を壊せば背丈は伸びるが、人間の都合で勝手に遺伝子を壊していいのかと疑問の声が広がっています。怖いのは、遺伝子ドライブといって、特定の遺伝子に偏って遺伝させる現象で、メスになる機能を破壊するように編集すると、子にも次々と伝わり、種の絶滅が可能になるといいます。生態系への影響が大きいことから、生物多様性条約の国際会議COP14でも取り上げられています。

日本ゲノム編集学会理事長の山本教授は、10年かかっていた品種改良を数年単位に短縮できる。意図しない変異が生じる可能性は低いと言われ、消費者庁は品種改良する際、外来遺伝子が残らず、もともと持っている遺伝子の働きを失わせただけであれば、従来の品種改良と同列の扱いとし、厳格な安全審査を行わず、届け出ただけで販売する方針を示しました。表示も義務付けていません。これに対して消費者連盟では、安全性の審査がないのは問題、表示がない食品が出てきたら消費者を選ぶことができない。また北海道大学の石井教授は、生命倫理学、アメリカでゲノム編集により改変された牛に、後になって微生物の遺伝子が組み込まれていたことが発覚した事例を挙げて、意図しない改変がないこ

とを証明するのは極めて難しい。ゲノム編集のメリットだけでなく、デメリットを丁寧に消費者に伝えていくことが食品行政の在り方と述べています。

東京大が一昨年、1万人を対象に実施した調査では、ゲノム編集による農作物を食べたくないと答えた人が4割強、食べたいが1割との結果で、国内の企業は二の足を踏む企業が多いが、ゲノム編集のトマトが今年夏に種の販売を開始、冬にも店頭に並ぶと言われていいます。今のままでは、食べたくないという人も知らない間に口にしてしまう。消費者庁にメーカーが表示をするよう強く求めるべきだと思います。

御答弁の中で、本町における小中学校の給食では、栄養教諭などからなる献立検討委員会で献立を決定していますという御答弁でしたが、この栄養教諭さんにもこういうゲノム編集というトマトピューレとかが販売される予定だということを適切に情報を提供していただきたいと思います。高GABAトマトのトマトピューレは、現段階で使用する計画はございませんでした。将来はどうなんでしょうか。

○議長（吉村裕之君） 池端教育委員会事務局長！

○教育委員会事務局長（池端徳隆君） そういう情報につきましては、再度確認の意味も踏まえて、伝達といえますか、議会でも御質問があった旨、伝えさせていただきます。将来にわたっても、使わないかということですねんけれども、国が安全性を認めたということで、ある意味、基礎自治体の裁量ではないのかもしれませんが、今の段階で当然使用もしておりませんし、今の段階でこれからも使うというような予定はございません。実際の問題といたしましては、やっぱり価格面、安価ではないと思います。そういう面も含めて、やっぱりかなり今の給食の御負担をいただいている部分であれば無理が生じます。さきにも千北議員言うてくれてはったように、基本的には無農薬、そういうふうなところを主にもっていきたいと考えてございますので、お答えとさせていただきます。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） そういう方向で、安価だったら使ってしまうかもしれないというような、ちょっと一抹の不安がありますけれども、よく研究、調査していただきたいと、給食にはなるだけ本当に安全なものだけ使っていただくようお願いしたいと思います。

では、次の質問に移ります。

感染拡大が続く中で、子供の自殺が増える傾向がありますが、広陵町では、そういう事故が起きていないということなので、本当に私も安心しました。家庭も学校もつらいという子供たちがたくさんいます。学校でも家庭でもない第3の居場所を持っているか持っていないかがその子の生きづらさを変えていくと言われていいます。感染拡大防止も重要ですが、子供たちの心を生き永らえさせるために、多様な居場所づくりを工夫していく必要が

あるのではないかと思います。子供たちの相談場所や社会資源についてもいろいろな形で情報発信し、子供たちの目に入るようにしておくことが大事だと思います。

厚生労働省の統計によりますと、新型コロナウイルスの影響が長期化する中、今年7月までに自殺した小中高校生は、全国で270人と過去最高になった去年、29人上回っています。最近の特徴としては、コロナ禍が長期化する中で、これまで問題を抱えていなかった子供が、生活や家庭環境の変化で生きづらさを感じた相談を寄せるケースが多くなったと支援団体は言われています。疲労や先の見えない不安がストレスとして蓄積され、死にたいと訴える子供が増加しているということです。

感染拡大の長期化により例年と異なる夏休みとなった中、学校現場では、東京足立区の中学校では、部活が原則中止となるなど、長期間生徒の様子が見えにくくなっていることから、夏休みの終盤26日、独自の登校日を設けています。教員たちは、各クラスで生徒の出欠をとったり提出物の回収をしながら、声のトーンや表情に気を配り、欠席した子に電話をかけて、変わったことないか、心配なことはないか確認をされています。広陵町では、夏休み明け休んだ子供はとか心配な子供たちへの対処はどのようにされておられますか。

○議長（吉村裕之君） 植村教育長！

○教育長（植村佳央君） まずは、8月25日から2学期を始めさせていただきましたけれども、そういう中で、いわゆる新型コロナ感染の拡大の影響で、保護者の方の中には、やっぱり学校に行かせるのが心配だということの教育委員会への連絡等もございました。そういう中で、こちらのほうから話した中身は、できるだけ私はそのまま学校のほうは予定どおり始業式を迎えたいということも言いましたし、そういう中で、保護者の方がやっぱり心配であれば、一定休ませる状況もあるかということで、その場合につきましては、担任のほうから、くれぐれもその子の、いわゆる学習保障であるとか、その辺はしっかりしてほしいということも学校に話をしておりますので、そういう対応をしていただいているのかなというふうに思います。

もう一つは、子供たち、この夏は、昨年みたいに夏休みを短縮したわけでございません。基本的には、7月20日から8月24日まで夏休みでございましたので、その間の中で、やはり子供たちが中学校のほうは部活動で来ますので、ある程度、子供たちの状況って分かるんですけど、小学校はほとんど分からないと。そういう意味で、例年、全校登校日を設けておりましたが、それもできない状況があって、そういう中で、クロームブックを1人1台持っておりますので、先生方の中で、やっぱりこの夏休み、いわゆるオンラインでつなぐことも必要やということで、そういった練習もかねて、子供たちとそういったオンラインで話をしてもらおうということを進めてほしいということを言いました。その中で、結構各学校のほうもその辺では進めていただきましたので、若干そこは上手くいったのか

など。子供たちの様子も含めて、見ていただきました。それとともに、私もこの長期休業になったときに、不登校の子供たちは、逆に気持ちは楽になるんですよね。友達がやっぱり学校へ行っている間は、自分は休んでいるという状況ですごく不安定で負担を感じるんですけれども、夏休みになった途端に、ちょっとそこは気が楽になるんです。そういう子供たちに、やはり担任の先生ができる限り家庭訪問等をして、子供たちとしっかりと寄り添うというか、話をしてくださいと。もう2回でも3回でも結構ですので、しっかりと対応をお願いしますということも言っています。そういう中で、子供たち一人一人、とにかく大事にしなければ、そしていろんな子供の細かな情報をやっぱり担任の先生をはじめ、いろんな先生から得ることが大事だというふうに思っておりますので、そういう対応をこの夏はしていただいたというふうに思います。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） なかなかきめ細かく対応していただいて、本当にありがとうございます。先ほどの足立区では、子供たち自身、つらい気持ちや悩みを発信できる力を身に付けてもらおうと、7年前からSOSの出し方に関する教育に取り組んでいます。この教育では、消えたいという気持ちを抱えたり、自分に自信がなかったりと心が苦しく、つらいときにストレスを和らげる対処方法として、深呼吸する、要らない紙を破る、大声で叫んだり歌ったりする、気持ちを文章に表わすなどと具体的に紹介しています。そして勇気を出して信頼できる人に自分の悩みを話すことははずかしいことではないというメッセージを継続して伝えているといます。この取組を重ねる中で、今年、区内の小中学生に行ったアンケートでは、相談できる人がいると回答した生徒が98%になったとのことです。足立区の教育委員会指導部の課長は、教員を含め、周囲の大人が変化を見ていかなければならないが、大人が察知して手を差し伸べられるケースばかりではないので、子供たちからも話ができる環境を作っていかなければならないと感じていると言われています。このような取組を取り入れていかれますか。

○議長（吉村裕之君） 植村教育長！

○教育長（植村佳央君） できる限りは、そういうやっぱり子供たちの情報をできる限り、やはり先生方を含めて、教育委員会とも、そこはとらえることが必要やと思いますので、そういう取組は、今後やっていきたいなというふうに思います。

○議長（吉村裕之君） 山田議員！

○4番（山田美津代君） この間もちょっとラジオを聞いていたら、自殺防止のそういう支援をしている人のお話がちょうど聞けたんですよ。その女性の方は、御主人様が自殺をされてしまって、自分も一日も早く後を追いたいという気持ちがあったんだけど、その気持ちを乗り越えて、今は、そういう自殺したいという子や大人も含めて、自殺防止の相談員をしているということでしたけど、死にたいとSOSを出されたときに、そんな死んではだめですよとかって言わずに、寄り添ってあげることが大事だというふうに力強く言われていました。否定せずに受け止め、寄り添うことができる力を高める必要があると思いますので、ぜひそういうケースがありましたら、こういうふうに御指導していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

これで終わります。